



2030年にあるべき姿

「現場で経済事業を語り実践する組織」の具現化へ ～今次中期事業計画の最終年度として最重点施策の着実な実践～

本県の農業をめぐる情勢について、農家の高齢化や後継者不足による離農等を背景に、農地の集積が進み大規模経営体は増加傾向にあるものの、依然として耕地面積の減少が進行しています。

また、燃料・飼料などの価格は引き続き高止まりしており、生産コストの増嵩により組合員の所得を圧迫していることに加え、昨夏の記録的猛暑の影響により多品目にわたり障害が発生し、収量減などにより農家手取りが減少していることから、生産意欲の減退による離農がこれまで以上に懸念されています。

J A全農あおもりは、2030年におけるあるべき姿を「現場で経済事業を語り実践する組織」と定め、今次中期事業計画の最終年度として、掲げた3つの最重点施策「生産振興の強化」「販売力の強化」「購買力の強化」を着実に実践するとともに、特に労働不足への対応や生産コストの低減、消費者の購買意欲喚起、物流の2024年問題など社会的課題への取り組みなどを加速させ、事業環境の変化に的確に対応することで、組合員の営農継続および系統経済事業の維持・拡大をめざします。

3つの最重点施策	
生産振興の強化	労働力不足の解消や省力化への対応、生産コストの低減など生産基盤の維持に努め、組合員の営農継続に寄与するとともに、J Aと一丸となって営農を切り口とした担い手へのアプローチを展開し、系統未利用・低利用者および新規就農者の系統誘導に取り組みます。
販売力の強化	安定的な販売先の確保や輸出の維持・拡大、購買意欲の喚起など有利販売を実践し、組合員の所得向上に努めるとともに、物流に係る2024年問題への対応を強化し、消費地から遠方に位置する本県の立地や品目特性を踏まえた流通改善に取り組みます。
購買力の強化	生産コストの低減や新規省力化資材の普及、スマート農機の活用など多様化する生産者ニーズに対応し、組合員のサービス向上に努めるとともに、環境に配慮した資材および青果物パレット輸送に適した資材の普及拡大により社会的課題への対応強化に取り組みます。

J A全農あおもり

絆 6 目次 KIZUNA CONTENTS

巻頭言	1	経営の窓口	16
フラッシュ	2	組織農政通信	17
インフォメーション	4	J A青森NEWS	18
東北農政局通信あおもり	13	輝き・部会のチカラ	19
実践農業者支援	14	新風	20

表紙の写真：新・農のある風景 ～其の99～ 「コンフューザーR」設置講習会（J A相馬村）

フラッシュ

JA 青森



今別町営牧場開牧 獣魂慰霊祭 (5/14)

JA青森蟹田支店今別営農センターは、今別町営山崎放牧場で、同町のブランド牛「今別牛」の放牧と獣魂慰霊祭を行った。

牧場内の一角に集められた33頭の牛は、健康状態の確認とダニ除けの薬剤を散布した後放牧。獣魂慰霊祭は、これまでの家畜の霊の供養と命の恵みへの感謝、組合員や参列者の健康と安全の祈願のため毎年行っている。

JA ぎょしょうがる



農福連携効果実感 スイカ苗定植で作業依頼 (5/16)

JAぎょしょうがる管内のほ場で、障害者就労継続支援A型事業所「にじのいろ」の職員と利用者9人が、小玉スイカ「姫甘泉」の定植作業を行った。

2畝のほ場には3000本の苗が定植される。作業を行った利用者は「株元を押さないように気をつけながら、素早く正確に作業するように気をつけている」と話した。

リンゴの巡回講座 高品質生産を指導 (5/17)

JA相馬村は、管内12箇所で開催した。リンゴの生育状況や、今後の作業計画について、JA農業振興課職員が説明し、高品質・大玉生産に向けて、摘果や袋掛け、病虫害防除を適期に行うよう指導した。

巡回講座は6月も開催し、生産情報を共有し安定生産を目指していく。

JA つがるにしきた



コメ作りの苦労を実感 小学生が田植え体験 (5/20)

鱒ヶ沢町立舞戸小学校5年生の34人が、同町の水田9㍓に素足で入り昔ながらの手作業による「まっしぐら」の田植え体験をした。

同校では、農作業を通じて自然や食への理解を深めようと、5年生が総合的な学習の時間を利用し、1年を通してコメ作りを学ぶ。9月中旬に児童も参加して稲刈りを行う予定。

JA つがる弘前



「コンフューザーR」設置説明 (5/15)

JAつがる弘前は北地区と岩木地区で、交信攪乱剤「コンフューザーR」の設置説明会を開催し、各会場とも約50人のリンゴ生産者が参加した

説明会では、「通常の薬剤散布に加えコンフューザーRを使用することで、病虫害からリンゴを守ることができる。高品質なリンゴ生産のためにも、積極的に設置してほしい」と呼びかけた。

JA 相馬村



JA津軽みらい



「青天の霹靂」の特別栽培米 田植え（5/15）

県ブランド米「青天の霹靂」2024年産の特別栽培米を生産する津軽みらい農協特A米プレミアム研究会は、特別栽培米「青天の霹靂」の田植えをした。

米穀店など取引先からの要望に対応し、同研究会では16人が36.8㍏の作付けを予定。会員は「一番の心配は天候。気候に合わせて水管理を行うことが重要。しっかり管理して育てたい」と話した。

JAゆうき青森



野辺地葉つきこかぶ 出荷開始（5/11）

JAゆうき青森管内の野辺地町では、特産品「野辺地葉つきこかぶ」の出荷が始まった。

出荷初日には、生産者4名が合計313㍏（1㍏5*₀）の野辺地葉つきこかぶを、JA野辺地営農センターへ出荷した。野辺地葉つきこかぶは、フルーツのような甘さと、生食できるほどの柔らかさが特徴。気温の低い夜明け前に収穫、品質と鮮度を保ったまま出荷する。

JA十和田おいらせ



ナガイモの安定生産へ 催芽種子を供給（5/18〜20）

JA十和田おいらせとJA野菜振興会ながいも専門部会は、ナガイモの安定生産にむけて、催芽処理をした切り芋を委託農家に供給している。

2024年度は、注文農家25戸、作付面積約1.9㍏に当たる7.8㍏を供給。JAでは、植え付け時の日焼けや、植え付け後の高温と乾燥に注意するよう呼びかけている。

ドローン打ち込み条播直播（5/10）

JAおいらせ六戸支店指導課は、六戸町の水田で、たん水直播コーティング資材「リゾケアXL」実演会を開き、参加者は水稲たん水直播用種子処理技術とドローンを活用した先進農業を体験した。

今回の実演会は、スマート農業の普及・推進が目的。参加者は、メーカー担当者が操縦するドローンを活用した打ち込み条播直播を見学し、安定性と作業の省力化を体験した。

JAおいらせ



JA八戸



菊類現地講習会（5/24）

JA八戸花き専門部は、新郷村の生産者の敷地で現地講習会を行い、生産者9人が参加した。

今年は平年に比べ、晴れの日が多く、気温がかなり高くなると予想され、日中はハウスを開放し、遮光資材を活用しながら室温の上がりすぎを防ぐこと、7月上旬から9月上旬は基本的に夜間も開放し、換気に努める必要があることを呼びかけた。

県JA女性協70周年 通常総会・記念式典

県JA女性組織協議会（県JA女性協）は4月26日、青森市の県農協会館で第70回通常総会を開いた。役員や部員、JA事務局ら104人が出席し、提出された4議案は全て承認された。

県JA女性協の松橋久美子会長は総会で「2023年度はパーテーションやマスクがなくなり、対面交流の素晴らしさを実感した年。24年度も県JA女性協の交流の輪を広げ、絆を深めてほしい」とあいさつした。

総会終了後には70周年記念式典を行い、県JA女性協会長や副会長を2年以上務めた部員9人に感謝の意を込め、特別功労表彰として賞状と記念品を授与した。

来賓として出席したJA青森中央会雪田徹会長は、祝辞で「70周年の晴れやかな節目を迎えられたのは、ひとえに部員の皆様の並々ならぬご尽力の賜物。今後も様々な活動を通じ、JA・地域・農業を支えていただきたい」と述べた。



▲総会であいさつする松橋久美子会長理事

県農協生活指導員連絡協議会 通常総会

県農協生活指導員連絡協議会は5月16日、青森市の県農協会館で2023年度通常総会を開いた。役員や事務局が出席し、提出された5議案は全て承認された。

23年度は外部から講師を招き、ヘアケアやスキンケア、口腔ケアなど体の調子を整える研修会を行ったほか、函館市へ視察研修に行き、JA函館市亀田女性部と交流した。

研修会や視察で学んだ内容や知識を役員らが自JAに持ち帰り、組合員や地域住民の暮らしを豊かにするための活動を各地域で展開している。

今回の総会では役員改選が行われ、新会長にJAつがるにしきたの成田信悟さんが就任した。



▲あいさつをする成田新会長ら役員

成田新会長は「皆さんの協力をいただいて頑張っていきたい」と就任のあいさつをした。

県立柏木農業高校 伝統の全校田植え大会

県立柏木農業高等学校は5月20日、同校敷地内の水田で伝統の「全校田植え大会」を行い、155人の全校生徒が学科ごとに手植えのきれいさを競った。

2025年に創立100周年を迎える同校。校舎の移転などで「全校田植え」が途切れたこともあったが、1983年からは毎年実施している。4つの学科が縦割りで作戦を練り、制限時間内にどれだけ正確に、きれいに手植えできるかを競う。

開始の合図で一斉に田植えを開始した生徒らは、冷たい泥の感触に歓声をあげながら、団結して田植えをした。

同校敷地内で栽培する米は全てG G A P 認証米。23年からは㈱クボタの協力のもと、シンガポールや香港へ輸出している。



▲全校田植え大会の様子

行事（6/10～7/10）

6月

- 11～12日 監督者研修会1（県農協会館）
- 12日 参協定例会（県農協会館）
- 17日 県JA協議会通常総会（アートホテル青森）
- 20日 第2回JA営農担当部課長会議（県農協会館）
- 21日 第1回きらきらサークル研修会（県農協会館）
- 25日 営農指導員資格認証指定研修会（県農協会館）
- 28日 通常総会（県農協会館）
- 28日 県農協農政対策本部委員会（県農協会館）

7月

- 1～4日 次世代リーダー育成研修会（ユニット1）（JA学園宮城（宮城県名取市））
- 8日 農業所得向上祈願（櫛引八幡宮（八戸市））
- 10日 定例理事会（県農協会館）

税金のお支払いは簡単・便利なJAバンクアプリがおすすめ！

JAバンクでは、2023年4月17日より、JAバンクアプリの機能を拡充し、PayB機能で地方税統一QRコード（eL-QR（エル キューアール））を活用した地方税納付への対応を開始した。地方税統一QRコードは、総務省が納税者の利便性向上と関係機関の事務負担軽減を目的に導入し、2023年4月1日から利用が開始されたもので、地方公共団体から送付される地方税の納付書に印字されたeL-QRを活用することで、さまざまな納税方法が選べるようになり、スマートフォン決済



アプリでのキャッシュレス納付も可能になった。

対象となる税目は、自動車税、軽自動車税、固定資産税、都市計画税で、JAバンクアプリのPayB機能を使えば、地方公共団体や金融機関の窓口に向くことなく、自宅やオフィスからいつでも簡単に納付することが可能となります。なお、2024年6月30日までキャッシュバックキャンペーンを実施しており、PayB利用者の方は、抽選により最大50,000円のキャッシュバックが受けられます。詳細については、ビリングシステム株式会社のホームページ（<https://payb.jp/>）にてご確認ください。



行事（6/10～7/10）

農林中央金庫

6月

- 11日 JA信用事業における内部管理態勢向上研修（*）
- 12日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 13～14日 信用事業新任管理者研修（*）
- 20～21日 ライフイベントセールスリーダー養成講座（第1回）（県農協会館）

7月

- 2～3日 相続実務研修（*）
- 4日 2024年度第1回証券外務員資格試験・内部管理責任者資格試験（県農協会館）

5日

反社会的勢力対応研修（*）

10日

投資信託基礎研修（県農協会館）
（*）はウェブ会議

農協電算センター

6月

- 11, 13, 18, 20, 25, 27日 営業店システム端末操作研修（県農協会館）
- 28日 定時株主総会（県農協会館）
- 28日 臨時取締役会（県農協会館）

台湾への地震見舞金目録贈呈

台湾東部沖地震の被災地支援に役立ててもらおうと、JA全農あおもりは4月22日、見舞金100万円を贈呈した。台湾は、県産りんごの主要輸出先で県内農業団体とのつながりも強い。全農あおもり運営委員会の雪田徹会長は「一日も早い復旧・復興を願っている」と話した。

雪田会長が同日、台湾の外交窓口機関・台北駐日経済文化代表処（東京都港区）で周學佑副代表に目録を手渡した。

県内JAが輸出した令和5年産りんご約4500トンのうち、台湾向けは6割強を占める。全農あおもりでは近年、台湾の流通関係者と関係を強化。今年3月にも、台湾の量販店で販売促進イベントを開催した。

全農あおもりは、台湾で地震が発生した平成28、30年にも見舞金を贈っている。



▲周副代表⑥に見舞金を手渡す雪田会長⑥

能登半島地震青果会社へ見舞金

JA全農あおもりは能登半島地震被災地にある青果会社の支援に役立ててもらおうと、見舞金を贈呈した。4月18日に丸果石川中央青果(株)、丸果七尾青果(株)の2社へ見舞金を贈った。

全農あおもり運営委員会の大場勉副会長は同日、両社の事務所にて大西信哉代表取締役社長（丸果石川中央青果）、宮本規代表取締役社長（丸果七尾青果）に目録を手渡した。

両社は青森県産品の青果物を扱う取引先であり、石川県内の流通を担っている。

全農あおもりの大場副会長は「皆さんの早期復旧・復興の一助になれば」と話した。



▲大西代表取締役社長⑥に見舞金を手渡す大場副会長⑥

りんご病害虫防除研修会

青森県りんご共同防除連絡協議会は4月11日に南津軽郡の藤崎町文化センターでりんご病害虫効率的防除研修会を開いた。りんご共同防除組合員とJA担当者ら115人が参加し、今年産の病害虫防除について研修を受けた。

青森県産業技術センターりんご研究所病虫管理部の石栗陽一研究管理員が、①害虫のモモシクイガの防除②マメコバチの管理③腐らん病一などの防除方法を説明。参加者は、モモシクイガに対する防除について、交信かく乱剤「コンフューザーR」の特徴や設置方法などポイントを学んだ。他にも、昨年の発生状況や病害虫防除暦についても知識を深めた。

県共防連の長内幸之修会長は「本年はりんごの生態が平年より早まっている。今回の研修内容を踏まえながら適期防除に万全を期し、高品質なりんごの生産に努めて欲しい」と呼びかけた。

12日には三戸郡の南部町ふれあい交流プラザで、県南地区研修会を開いた。



▲防除のポイントについて講義する石栗研究管理員

ＪＡ米穀担当部課長および担当者合同会議

ＪＡ全農あおもりは、４月２５日、青森市の県農協会館で「ＪＡ米穀担当部課長および担当者合同会議」を開き、約６０人が出席。令和６年産米の出荷契約手続きについて説明した。

５年産主食うるち米の販売は、インバウンド需要の増加等による業務用米の売上回復の影響もあり、７５万トン（前年比１１０パーセント）と好調。また、５年産米価格は元年度に次ぐ高水準で推移している。

６年度は、生産者の所得増大に向けた販売力強化を目的とし、安定的な販売に向けた契約・販売に取り組んでいく。

また、県産米の消費拡大に向けて、全国統一キャンペーンや「青天の霹靂」を中心とした試食販売や推奨販売実施のほか、ＪＡ・生産者の参加による販売活動の強化、実需者とタイアップした業務用需要の拡大および定着化等に取り組む。

全農あおもりの長内敏也米穀部長は「６年産米においては、青天の霹靂が１０年の節目を迎えるほか、はれわたりが本格的に県外デビューとなる。いま一度は場管理に注力し、良質米の確保をお願いしたい。本会としても、実需者との契約栽培や複数年価格固定契約等の手法を用いて、生産者の手取り安定化を図っていく」と述べた。



▲本年産米の出荷契約について協議する出席者

アグリショップ青森店で花の苗プレゼント

４月２７日からの大型連休中、青森市の県観光物産館アスパム内「アグリショップ青森店」で、りんごやジュース、にんにくなどを買い求める客らに、花の苗をプレゼントした。

旬の県産花き「マーガレット」「ネモフィラ」の２つ。税込み５００円以上購入した利用客に期間限定で配布した。

同店の高橋次郎所長は「昨年に比べ大型連休中の利用客が増えている。自宅で花を楽しんでもらえたら嬉しい」と話した。



▲花の苗を配布する高橋所長

りんご病害虫防除啓発新ＣＭ作成

ＪＡ全農あおもりは、モモシンクイガをはじめとしたりんご病害虫防除啓発の一環として新たに交信かく乱剤「コンフューザーＲ」のラジオＣＭを作成した。

令和５年のような異常高温年には害虫の発生サイクルが通常年と異なり、害虫が多発することが懸念されている。

６年産りんご栽培に向けて新たに青森県りんご病害虫防除暦に採用され、初めて使用する生産者が多い。そのため、ＣＭでは、５月中旬にコンフューザーＲを設置し、害虫発生の抑制につとめるよう呼びかけた。

ＣＭを作成した全農あおもり肥料農薬推進課の須藤雅樹課長は「剤の効果を最大限発揮するには地域が一丸となって取り組む必要がある。県の補助金を活用し、害虫の発生に備えて欲しい」と話す。

適期設置に向けて５月１日から５月１５日までの計３０回ラジオＣＭを流した。

「コンフューザーＲ」の問い合わせはお近くのＪＡまで。



▲コンフューザーＲの適期設置を呼びかける須藤課長

農産物検査員育成研修開講式

青森県ＪＡ農産物検査協議会は５月７日、青森市の県農協会館で「令和６年度農産物検査員育成

研修」を開講し、県内7 J A 1 団体から22人が参加した。

研修では関係法令や分析・鑑定方法などの基礎課程を6月末までに13日間学び、各作物の収穫期には現場実習課程を13日間実施する。

長内敏也会長（J A 全農あおもり米穀部長）は、「農産物検査は公正で円滑な農産物の流通に欠くことのできない重要な業務。この検査が産地の顔であり、評価・信用であることを改めて認識しながら研修に臨んで欲しい」と呼び掛けた。

また、東北農政局青森県拠点の大石俊明総括農政業務管理官は、「農産物検査の基本は、検査員の方々の鑑定眼と経験により培った検査技術。この研修を修了し、公正かつ信頼される検査員となることを期待する」と研修生を激励した。

同研修は来年2月に修了する予定。



▲開講式に参加する受講者

水稲スマート農業研修会

J A 全農あおもりは、5月8日、J A ごしよつがる本店でごしよつがる農協水稲部会への水稲スマート農業研修会を開催し、部会員10名が参加した。

研修会では、「ザルビオフィールドマネージャー」を活用した可変施肥の実証事例や、水田の水位をスマートフォンなどで確認できる「水田ファーム」の機能を学んだ。ザルビオフィールドマネージャーは衛星画像を解析し、圃場の生育状況をマップに表示できるほか、A I 分析で生育ステージや病害の発生予測が得られる栽培管理システム。



▲研修会の様子

同部会の石岡雅樹会長は「労働力不足は当部会の課題でもあるため、今回の研修会で学んだスマート農業技術・農機を活用して、農作業の効率化を図りたい」と話した。

宮農大学校高密植わい化栽培設置セレモニー

J A 全農あおもりは、5月9日、担い手育成やりんご高密植わい化栽培の普及を図るため、青森県七戸町の青森県宮農大学校にて、実践農場を開設した。

約10アールの実践農場には、令和8年までに計約400本の苗木を植える予定。全農あおもりがトレリス一式や点滴かん水装置、遮光資材といった資材を無償貸与。果樹課程の学生らが実習し、栽培技術を学ぶ。

コンパクトな木を狭い間隔で育てるりんご高密植わい化栽培は、一般的な丸葉と比べて成園化が早く、作業効率が高い。高齢化や後継者不足でりんご農家が減少する中、生産性に優れた栽培方法になる。

全農あおもりの成田具洋県本部長は「次世代を担う若者に栽培技術を学んでもらい、りんごの生産基盤を維持したい」と話した。

この日、同校にて行われた設置セレモニーには、宮下宗一郎知事や成田県本部長、同校の松江利英校長の他、学生ら約50人が出席。「ふじ」「シナノゴールド」の苗木100本を定植した。



▲学生と高密植わい化栽培のりんごを定植する
成田県本部長㊦

春掘りながいも販売対策会議

J A 全農あおもりは5月10日、十和田市の上十三広域農業振興会で令和5年産「春掘りながいも販売対策会議」を開いた。各J A の担当課長ほか22人が出席。夏場の需要期に向けた今後の販売対策を話し合った。

全農あおもりの坂本浩やさい部長は「物価上昇による節約志向の強まりや、生産資材の高騰、輸

送コストの増嵩などにより、生産者はますます厳しい状況となっている。加えて、5年産の出荷量が少ない見込みとなっており、産地と消費地が協力し合って目標の達成を図る必要がある。」と呼びかけた。

会議では、各JAの入庫状況を踏まえ、5年産全体の出荷見込み数量を当初計画の240万ケース／10キロから190万ケース（当初計画比79%）に下方修正し、5月以降11月までの出荷見込み数量を124万ケースに設定した。

また、有利販売実現のため、①最需要期となる6月～8月の安定供給②発生割合の高い4L・3L級の予約相対取引の拡充③下位等級品の業務加工向け販売やパック品の販売拡大などの具体策に取り組んでいくことを決めた。



▲令和5年産ながいも販売対策会議の様子

全農杯卓球大会青森県予選会

JA全農が特別協賛する「全農杯2024年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビの部）」の青森県予選会が5月11日、黒石市のスポカリン黒石で開かれた。JA全農あおもりは大会に協賛し、優勝、2位、3位の選手に県産農畜産物を贈呈。優勝者には倉石牛サーロインステーキ、2位には精米（はれわたり）、3位には飲むヨーグルトセットを贈呈した。

また参加賞として、出場選手全員の340名に「ニッポンエールグミ（世界一りんご）」を配布した。

全国大会は、7月26日から28日に神戸市で行われる。



▲入賞した選手たち

ドローンを活用した水稻除草剤散布の請負作業

JA全農あおもりは、5月13日、北東北スカイテック㈱と連携し、つがる市のほ場で、ドローンを活用した水稻除草剤散布の請負作業を実施した。

高齢化や担い手不足等により大規模生産者への農地集積が進むなか、繁忙期の作業を補完することで生産者の省力を図ることを目的として、令和6年度から開始したもの。

同日は、1ヘクタールのほ場で協友アグリの水稲除草剤「サラブレットGO F G剤」を散布した。

依頼した生産者は「例年は全圃場の田植えを終えた後に除草剤を散布していたので、散布の遅れによる雑草の発生を抑えきれなかった。本事業を利用することで、田植え後数日以内に除草剤を散布できるので、省力化は勿論、雑草の発生抑制にも期待している。」と話した。

他にも県内4ヶ所で請負事業の実施を計画しており、水稻除草剤散布の他、「リゾケアXL」でコーティングした種籾の直播作業の請負作業も予定している。



▲ドローンによる散布の様子

行事（6／10～7／10）

6月

- 10日 令和6年度やさい・花き販売懇談会（ウエディングプラザアラスカ）
- 26日 JA肥料農薬新人スキルアップ研修会（県農協会館）
高圧ガス第二種販売講習会（県農協会館）

7月

- 8日 ガス器具取扱研修会（県農協会館）
- 10日 運営委員会（県農協会館）

令和6年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会の開催

JA共済連青森は4月24日、青森市のホテル青森にてJAバンク青森と合同で「令和6年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会」を開催した。

開会にあたり、運営委員会会長の雪田徹会長は、「前年度に引き続き、肥料・飼料・資材価格が高騰したほか、記録的猛暑により、県内農産物の収量の減少、品質の低下など多大な影響があり、組合員の生産活動およびJA経営にとって苦勞の多い1年間でした。こうした状況下で、共済事業は3か年計画の2年目として、各JA役職員が一丸となって積極的に普及推進活動に取り組んでいただきました」と感謝を述べ、「令和6年度は、JA共済3か年計画の最終年度であり、新たな生活様式への対応として仕組み・サービスの一体的展開、組合員・利用者の利便性向上や契約者対応力の強化等に向けて、デジタル技術のさらなる活用により「寄り添う・届ける・繋がる」環境づくりを行い、共済事業体制総点検運動を踏まえた課題への対応や、コンプライアンス態勢の強化など、強化すべき事項に着実に取り組んでいきます」と挨拶した。

大会では、令和5年度LA優績顕彰・新任LA優績顕彰が行われた。併せて、スマイルサポーター優績顕彰及びJA自動車共済損害調査サービス優秀組合表彰・JA自動車共済損害調査サービス優秀担当者表彰・JA共済優績組合表彰が行われた。

その後、各JA代表者による令和6年度の決意表明が行われ、JAゆうき青森の村山淳一常務の発声により「がんばろう三唱」を唱和した。

最後に運営委員会副会長である大場勉副会長の閉会挨拶により、本大会は幕を閉じた。



▲挨拶を述べる雪田運営委員会会長



▲JAゆうき青森の村山常務の発声により「がんばろう三唱」が声高らかに唱和された。

令和5年度LA優績顕彰

《プラチナクラス受賞》

JAつがるにしきた	白戸 龍 義
《ゴールドクラス受賞》	
JA十和田おいらせ	苫米地 有 子
JA十和田おいらせ	大 坂 謙 一
JA十和田おいらせ	大 山 六 百 子
JA八戸	小笠原 総一郎
JA八戸	日 澤 さゆり
JA八戸	中 野 裕 樹

《シルバークラス受賞》

JAつがるにしきた	長 尾 めぐみ
JA十和田おいらせ	山 内 沙 織
JA十和田おいらせ	佐 藤 真 弓
JAゆうき青森	澤 田 泰 樹
JAゆうき青森	山 本 千 晴
JA八戸	谷 内 夏 澄
JA八戸	竹 林 良 子

《ブロンズクラス受賞》

JAつがる弘前	中 田 美 穂
JAつがる弘前	外 崎 幸
JAつがる弘前	佐々木 安 南
JAつがるにしきた	澤 田 若 菜
JA十和田おいらせ	坂 本 久 美 子
JA十和田おいらせ	舘 康 子
JAゆうき青森	沼 尾 美穂子
JA八戸	種 市 良 祐

令和5年度新任LA優績顕彰

《LA個人実績 第1位》

JAつがるにしきた	白戸 龍 義
-----------	--------

《LA個人実績 第2位》

JA十和田おいらせ	苫米地 有 子
-----------	---------

《LA個人実績 第3位》

JAつがる弘前	中 田 美 穂
---------	---------

令和5年度スマイルサポーター優績顕彰

《個人実績 第1位》

JAつがるにしきた	滝 吉 千賀子
-----------	---------

《個人実績 第2位》

JAごしょつがる	櫻 井 麻 美
----------	---------

《個人実績 第3位》

JA八戸	浅 水 久 美 子
------	-----------

《個人実績 第4位》

JAつがる弘前	桑 田 祐 也
---------	---------

《個人実績 第5位》

JAつがる弘前	吉 川 佳 菜
---------	---------

令和5年度JA自動車共済

損害調査サービス優秀組合表彰

《最優秀組合》

JA青森

《優秀組合》

JA十和田おいらせ

令和5年度JA自動車共済

損害調査サービス優秀担当者表彰

《最優秀担当者》

JA青森	村 上 淳
------	-------

《優秀担当者》

J A つがるにしきた	松 橋	崇
J A 十和田おいらせ	高 田	寿 志
J A ゆうき青森	村 松	健 人
J A 津軽みらい	宇 野	正 樹

令和5年度 J A 共済優績組合表彰《全国表彰》

《新契約優績表彰組合／建物共済の部》

J A 十和田おいらせ

《新契約優績表彰組合／

自動車共済・自賠責共済の部》

J A 十和田おいらせ

J A 八戸

《普及活動特別賞組合

推奨仕組取組状況／医療共済》

J A つがる弘前

《農業保障優績表彰組合》

J A つがる弘前

J A つがるにしきた

J A 十和田おいらせ

《連続受賞優績表彰組合／5年連続》

J A 十和田おいらせ



▲プラチナクラス受賞の J A つがるにしきた白戸龍義さん

共済担当部長会議の開催

J A 共済連青森は5月14日、青森市の農協会館で共済担当部長会議を開催した。

開会にあたり、沼田本部長は推進活動をはじめとした事業全般においてリーダーシップを発揮していただいていることに感謝を述べた。

会議では、令和6年度事業計画、令和5年度普及推進結果、令和6年度 J A 別普及推進活動計画、令和6年度全 J A 普及推進目標の達成に向けた取組み、令和6年度各種広報活動の取組み、令和6年度地域・農業活性化の取組み、令和5年度 J A 本体代理店・県本部代理店実績、令和6年度共栄火災の取組みについての説明および協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

きすなの青い森プロジェクトの開催

J A 共済連青森は5月28日、J A 共済ビジネスサポート株式会社と森林組合あおもりの協力のもと、「J A 共済きすなの青い森プロジェクト」を平内町で開催し、県内 J A 職員15名が参加した。同プロジェクトは平成29年から開催している。

当日は天候に恵まれ、森林プログラムでは「J A 共済きすなの青い森」（弁慶内地区）で除間伐などの作業見学をし、植樹観察等の自然観察を行った。食育プログラムでは食品ロスや食育に因んだクイズで、現代の「食」に関する問題や課題について学んだ。平内消防署の協力により、消火・救助活動の見学や起震車を使用した地震体験を行ったあと、木工クラフトプログラムでは木材を使用したクラフト体験に挑戦した。

参加者は「貴重な体験ができ、とても興味深かった」と楽しみながら参加している様子が伺えた。



▲集合写真

行事（6／10～7／10）

6月

- 13～14日 共済事務処理担当者研修会（オンライン）
- 18～20日 J-WAYS 基本編・活動編研修会（県農協会館）
- 24日 J-WAYS 修得編研修会（県農協会館）
- 27日 J A 共済コンプライアンス点検研修会（オンライン）

7月

- 3日 自賠責共済経費にかかる J A データ報告研修会（県農協会館）
- 6日 アンパンマン交通安全キャラバン／J A 八戸（南部町民ホール「楽楽ホール」）
- 7日 アンパンマン交通安全キャラバン／J A 十和田おいらせ（本店3階大ホール）
- 8日 防犯カメラ設置による「安心・安全まちづくり」の推進に関する協定式（県農協会館）
- 9～10日 J A 審査員養成研修会（生命コース）（県農協会館）
- 10日 運営委員会（県農協会館）
J A 共済ヘルスアップ講座（プラザマリユウ五所川原）

乃木坂46と一緒に学ぶ「こく しょう こく さん国消国産」

乃木坂46と一緒に「国消国産」を楽しく学べるコンテンツが盛りだくさん！
特設ウェブサイトにてぜひアクセスしてみてくださいね！！



※サイト構成の一部を加工しています

乃木坂46メンバー7人それぞれが“選ぶ楽しさ”や“つくる嬉しさ”などを表現！！

【TikTok】

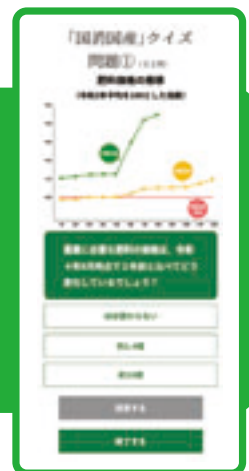
乃木坂46メンバーが「国消国産」の意義やJA直売所の魅力、国産農畜産物等のすばらしさをテンポよく紹介！

【動画】

乃木坂46が出演する28本の動画が勢ぞろい。「国消国産」を学べるものや、メンバーが推し食材の魅力等を全国各地で体当たりレポートした「国消国産を学ぼう！」シリーズなど、多彩な動画をラインナップ！！

【クイズ】

「国消国産」の理解に大切な食や農に関するトピックを題材にしたクイズ。合計クイズ数は21問！分かりやすい解説付き。新しいクイズも順次公開！！



※2022年クイズの内容を加工しています



乃木坂46 国消国産



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。



令和4年 市町村別農業産出額（推計）（青森県）

農業産出額の1位は弘前市、2位は十和田市、3位はつがる市

令和4年青森県の市町村別農業産出額1位部門の分布をみると、東青、中南地域は果実部門、西北地域は米部門、三八、下北地域は鶏部門、上北地域は野菜部門が多くなっています。

県内順位では、1位が果実部門の産出額が多い弘前市（東北1位、全国7位）、2位が豚部門の産出額が多い十和田市（東北6位、全国44位）、3位が米部門の産出額が多いつがる市（東北12位、全国87位）となっています。

図 農業産出額1位部門の分布（令和4年）

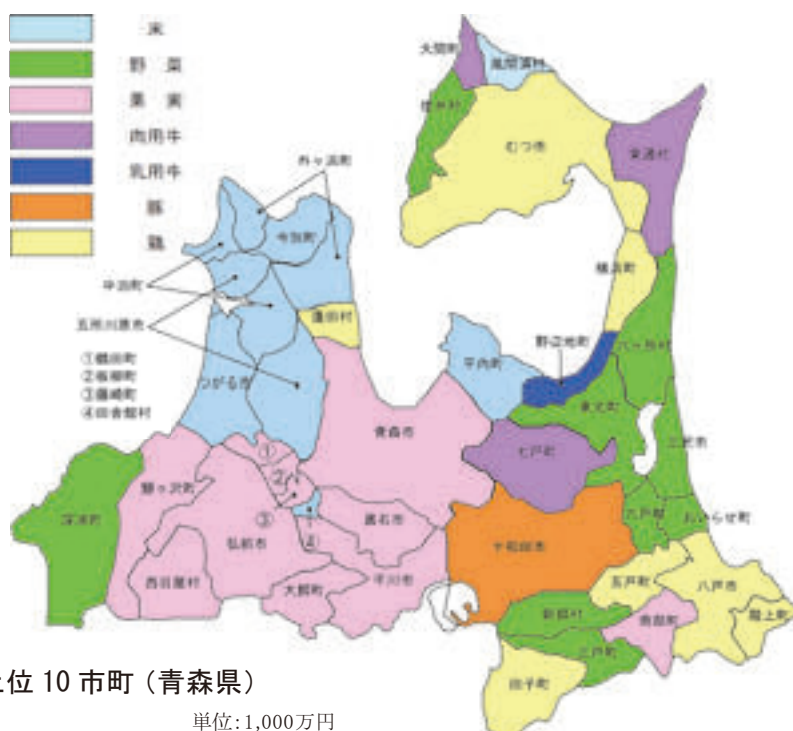


表 令和4年農業産出額の上位10市町村（青森県）

単位: 1,000万円

順位	市町村	令和4年 農業 産出額	耕種部門			畜産部門			
			米	野菜	果実	肉用牛	乳用牛	豚	鶏
1	弘前市	5,044	292	174	4,487	1	6	-	0
2	十和田市	2,526	299	712	8	403	27	987	63
3	つがる市	1,931	723	674	248	16	1	x	-
4	八戸市	1,852	94	178	89	55	7	362	1,004
5	三沢市	1,458	17	593	0	35	25	406	306
6	東北町	1,336	92	799	0	78	184	27	117
7	平川市	1,268	180	141	895	10	-	x	5
8	五戸町	1,253	79	356	102	69	4	-	597
9	横浜町	1,158	14	27	0	39	40	x	956
10	七戸町	1,038	123	218	8	621	11	30	-

※表中の「-」は事実のないもの、「x」は個人又はその他の団体に関する秘密を保護するため、統計数値を公表しないもの。

市町村別農業産出額 データベース

市町村別、県別及び主要な品目別の農業産出額並びに全国順位等を検索いただけます。

<https://www.maff.go.jp/tohoku/stinfo/deta/>



農業者のみなさまへ

農作業中の熱中症を予防しましょう!!

暑さを避け、こまめな休憩と水分補給、単独での作業を避けましょう。

「東北農政局通信あおり」は、東北農政局ホームページ（青森県拠点）に掲載しており、印刷も可能です。



実践 農業者支援

J Aグループ環境調和型農業の取組み

1. はじめに

近年、世界全体で大規模自然災害が発生しており、地球温暖化による異常気象が大きな原因とされています。異常気象による自然災害は農業にも大きな影響を与え、日本においても豪雨による土砂災害や洪水・浸水による農産物被害等が顕在化しています。この異常気象への対応として、SDG sや環境重視の政策が国内外で打ち出されており、今後もこのような動きが加速していくことが予想されます。

2. 国の環境負荷低減対策

このような中、国は食料・農業の生産力向上と環境負荷低減による持続可能な農業をめざす「みどりの食料システム戦略」を策定し、化学農薬・肥料使用量削減等の2050年成果目標・2030年中期目標を設定しました。

また、2030年までにSDG sがめざす環境調和による持続可能な世界と併せ、ほぼ全ての産地で国際水準GAPが実施されるよう推進する等の目標が示されました。

さらに、具体的な手段として、2027年度（2024年4月から試行）からは農林水産省の全ての補助事業に、最低限行うべき環境負荷低減の取組みを義務化する「クロスコンプライアンス（＊１）」の導入が示されました。

（＊１）クロスコンプライアンスとは、農林水産省の補助金を受給するために一定の要件を課す政策手法



3. J Aグループの環境等に関する取組み経過（全国段階）

年 月	内 容
2020年5月	○J AグループSDG s 取り組み方針
2021年10月	○第29回J A全国大会
	1. 持続可能な食料・農業基盤の確立 ①持続可能な農業生産の実現 イ. みどりの食料システム戦略をふまえた環境調和型農業の推進
2023年10月	○J Aグループ『よりよい営農活動』取り組み方針
2024年3月	○J Aグループ環境調和型農業取り組み方針

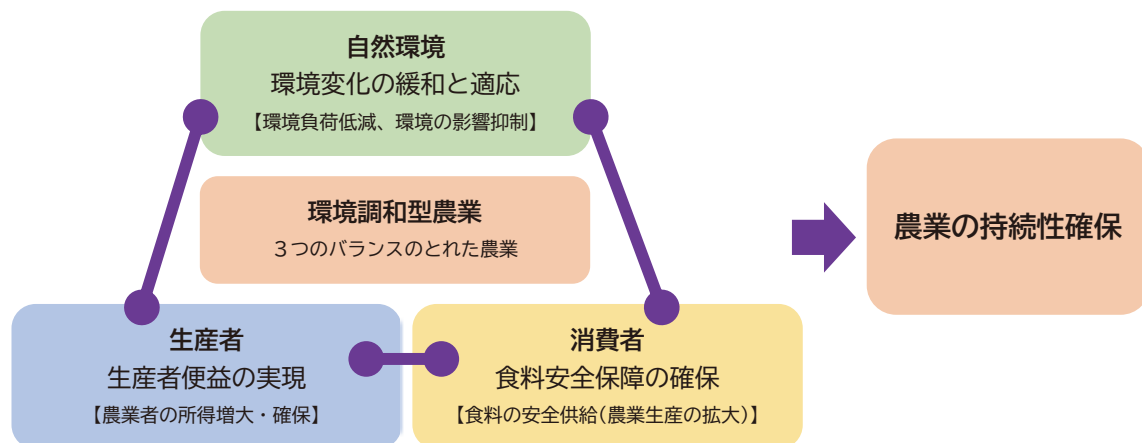
4. 環境調和型農業に取り組む基本的な考え方

（１）基本的な視点

- ①**自然環境**への負荷を緩和するとともに変化に適応
 - ・持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献
 - ・生産・加工・流通・販売等の各段階における環境負荷の軽減
- ②**生産者**にとっての便益を実現
 - ・生産者の所得増大・確保を前提とした環境負荷の実現等
 - ・生産者の経済的合理性等に配慮した現実的な対応
- ③**消費者**の食料安全保障の確保
 - ・消費者に安定的に食料を提供する責務と持続可能な生産基盤の確立

(2) 環境調和型農業の定義

環境調和型農業とは、「農業の持続性確保」の観点から生産者の便益と食料安全保障を確保しつつ、自然環境への負荷の緩和と適応をはかる農業」と定義



5. 環境調和型農業の取組み

(1) 営農活動における位置付け

長期的視点から次世代が安心して食料を生産し、消費者が安心して食料を消費できる営農体系をめざすため、「環境調和型農業」を営農活動の持続性確保に必要な基本的な取組みとして位置付け、「みどりの食料システム戦略」を考慮し、①化学肥料削減 ②化学農薬削減 ③温室効果ガス削減 ④プラスチック削減を基本に生物多様性の維持・回復等へ配慮した範囲とします。

【環境分野別の基本的な取組みの概要（イメージ）】

	化学肥料削減	化学農薬削減	温室効果ガス削減	プラスチック削減
水 稲	・ 土壌診断に基づく 適正施肥 ・ 国内資源を活用した 施肥・土づくり	・ 耕種の防除及び圃 場環境づくり ・ 予察・周知の仕組 みづくり	・ 秋耕と中干の延長	・ 生産者への理解促 進 ・ プラ被覆肥料に依 存しない施肥体系 の検討
園 芸			(検討)	
果 樹			(検討)	
	堆肥活用	環境調和型農業で生 産された飼料の活用	調整飼料対策	アニマルウェルフェア (＊2)
畜 産	・ 堆肥の供給を検討・ 協議する場の設定	・ 国産資料の活用を 検討・協議する場 の設定	(畜種ごとに検討)	・ 総合的な視点から 検討

(＊2) アニマルウェルフェアとは、ストレスが少なく健康的な生活ができる飼育方法を目指す畜産。

(2) 地域実態に応じた段階的取組み

環境調和型農業の取組みは、取組み経過や生産条件によって異なるため、地域実態に応じて段階的に取組む必要があります。このため、地域実態を分析し、基本的な取組みを踏まえて生産部会や集落営農等の取組み単位毎に対応を検討する必要があります。

6. まとめ

環境負荷低減の取組みは、「みどりの食料システム戦略」に基づく国の補助事業活用時の義務化など、幅広い分野での対応を求められることが予想されます。このため、本県においても「よりよい営農活動（GAP）」と連動した研修会・説明会等を開催して参ります。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

◆令和5年度決算速報からみる県内3月決算JAの状況 ～夏場の気温上昇が本県農業経営に大きく影響～

1. はじめに

2023年は、コロナ禍からの景気回復が進んでいたが、ロシアによるウクライナ侵攻以降、食品やエネルギー・肥料などの原材料価格が高騰したことが本県経済にも影響を及ぼした。また、本県農産物は、観測史上最高といわれる夏場の気温上昇により、米穀・りんご・やさいが多くの被害を受けたことにより厳しい販売が続いており、JA経営への影響や、農家組合員の所得への影響も懸念される。

今回は、令和5年度3月決算JAの決算速報をもとに県内JAの状況を紹介したい。

2. 令和5年度決算速報（3月決算JA）の概要

3月決算JAの状況としては、事業総利益（3月決算JA計）が14,074百万円（前年度14,394百万円）、前年対比△320百万円（97.8%）と減少した。信用・共済・購買事業総利益は平年並みとなり、それぞれ2,524百万円（94.3%）、3,029百万円（95.0%）、3,977百万円（96.7%）となった。

販売事業総利益は、夏場の高温による落果・品質低下など、本県農産物が全体的に収量減となったものの、令和4年度の豪雨災害による減収からはやや回復基調となったため、2,994百万円（100.8%）と増加した。また、その他事業総利益（加工・利用・保管など）は一部JAで利用料等の見直しを行ったことなどにより、1,860百万円（107.5%）と増加した。

事業総利益から事業管理費を差引いた事業利益は、7JAとも黒字を確保したものの、571百万円（前年度716百万円）、前年対比△145百万円（79.7%）と前年を大きく下回った。

さらに、当期剰余金は、固定資産減損会計に基づく減損損失を計上したことなどにより、3JAで当期損失金を計上した結果、3月決算JA合計は△157百万円となった。

なお、詳細は下表のとおり。

令和5年度決算速報（3月決算JA）

（単位：百万円）

	令和5年度	令和4年度	差額	前年対比
事業総利益（A）	14,074	14,394	△ 320	97.8%
うち信用	2,524	2,676	△ 152	94.3%
うち共済	3,029	3,189	△ 160	95.0%
うち購買	3,977	4,114	△ 137	96.7%
うち販売	2,994	2,969	25	100.8%
うちその他	1,860	1,729	130	107.5%
うち指導	△ 310	△ 284	△ 26	109.3%

	令和5年度	令和4年度	差額	前年対比
事業管理費（B）	13,502	13,678	△ 175	98.7%
うち人件費	8,945	9,063	△ 118	98.7%
事業利益（A－B）	574	716	△ 145	79.7%
当期剰余金	△ 157	538	△ 694	△29.1%

3. さいごに

JAの経営収支は、正組合員の減少・高齢化による労働力不足、コスト上昇による収益性低下などの様々な課題により、今後も厳しくなることが想定される。総合事業経営の前提となる収支確保のため、将来の見通しを踏まえた収支シミュレーションを策定のうえ、早期に目標利益確保のための取組みを実施していくことが重要となる。

本会としても、令和6年度は第29回青森県大会実践期間の実践最終年度として、持続可能なJA経営基盤の確立・強化、早期警戒制度を踏まえた経営の健全性確保、不断の自己改革への取組み、事業・施設の再編等の取組みを引き続き支援していきたい。

（中央会 経営対策部）

組 織 農 政 通 信

令和6年度食料・農業・地域政策推進全国大会

J A全中と全国農業者農政運動組織連盟は5月10日、東京都千代田区のベルサール半蔵門で、新たな食料・農業・農村基本計画における政策の具体化と与党に要請するとともに、J Aグループの意思結集と反映を図ることを目的に「令和6年度食料・農業・地域政策推進全国大会」を開いた。オンラインを併用し、全国からJ Aや農政組織の代表者ら4,000人超が参加し、J Aグループ青森からは雪田徹青森県農協農政対策委員長（J A青森中央会会長）をはじめ、J A組合長ら12人が参加した。

主催者を代表してJ A全中の山野徹会長が挨拶し、「食料安全保障の確保に向けた施策の具体化」や「農業の持続的な発展と農村振興」など5項目について要請を行った。生産資材の高止まりが続く一方で適正な価格形成がすすんでいないこと、多くの地域で営農が継続できるかどうかという危機的な状況であることに触れながら、農林水産関係予算の十分な確保や、地域計画に位置付けられた多様な農業者に対する施策の抜本的な拡充などを訴えた。

要請を受け挨拶した与党政策責任者である自由民主党の江藤拓総合農林政策調査会長や自由民主党の森山裕総合農林政策調査会最高顧問、公明党の稲津久農林水産業活性化調査会長はそろって要請に理解を示した。ほかにも100人近い与党国会議員も臨席し、司会から一人一人紹介された。

続いて、J A宮崎中央会の栗原俊朗代表理事会長が意見表明し、生産コスト上昇により負担が集中する産地の苦しい声を代弁。全国の農家が適正な価格形成に向けた仕組みの構築に期待していると述べた。

その後、J A全国女性組織協議会の久保町子会長が音頭をとり、参加者全員でガンバロー三唱した。

同日、大会を前にJ A青森中央会と青森県農協農政対策委員会は衆参議院会館で本県選出国会議員7人に「令和6年度食料・農業・地域政策の推進に向けた要請」を行った。

要請では、①食料安全保障の確保に向けた施策の具体化、②農業の持続的な発展と農村振興等の5項目を掲げ、特に食料安全保障の確保、適正な価格形成の実現ならびに多様な農業者への施策の抜本的な拡充などの必要性を訴えた。

要請に対し、江渡聡徳衆院議員は「改正基本法では、農地をどう守っていくかが焦点。単協においては、営農指導に改めて力を入れていく必要があると感じている。私たち議員もどんどん頼ってほしいし、J Aグループ青森にも一丸となって課題解決に取り組み、地元を元気にしてほしい。」と力強く述べた。

（中央会 農業対策部）



▲改正基本法の政策の具体化を訴えた全国大会



▲江渡議員（左）と意見交換する雪田委員長



▲要請書を受け取った木村議員(右)と雪田委員長

J A 職員も摘花 りんご花粉大作戦！

J A 青森は4月26日・27日、弘前市乳井地区と青森市浪岡野沢地区にてりんご花粉大作戦を実施した。この作戦が実施された背景には、中国で火傷病の発生が確認されたことが挙げられる。これに加えて、国産花粉の入手も困難であるため、例年通りの量を確保できない状況となっており、その対応策として、J A 職員が自ら摘花し花粉を確保した。この取組みはJ A 青森としては初めての試みになった。

摘花作業は開花の早い乳井地区の園地で行われた。摘んだ花は青森市浪岡野沢地区へ運搬され、機械を使用して花から薬だけを採取し、採取した薬は、手作業でふるいにかけて後に、加温して開薬させていた。



花摘みの様子



りんごの花を摘む J A 職員

春の苗祭り 今年也大盛況

J A 青森蓬田営農センターは5月9日・10日、蓬田地区と蟹田地区で野菜や花の苗を販売する「春の苗祭り」を開催した。今年はお客様一人ひとりにJ A 職員がつき、注文漏れや現金差異が無いよう丁寧な対応を行った。

会場には主にトマトやなす、パプリカなどが並び、有限会社渋谷種苗に発注して仕入れた20品目以上の苗が売られたほか、キッチンカーも出店した。

蓬田会場は、あいにくの雨だったが、販売開始時間の前から多くの地域住民の方が集まり、来場者は販売が始まると、お目当ての苗を箱いっぱいに入っていた。



大盛況の苗祭り（蓬田会場）



JA青森中央会
経営対策部 経営企画課
こがわ ともひろ
古川 智丈 さん

輝き

●プロフィール

2022年4月から勤務 青森市出身 39歳

— 働くきっかけは？ —

農業は国の礎であると考えていて興味を持っていたところ、ご縁があって入会しました。

— 業務内容を教えて下さい。 —

マネロン・反社・個人情報対応やコンプライアンス・不祥事未然防止対応等に携わっています。

— 働いた感想は？ —

使用する勘定科目の数の多さには、なかなか慣れません。

— 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

相手への配慮と同時に伝えすべきことを明瞭・簡潔にすることの両立を心がけています。

— 特技・趣味は？ —

全国各地への旅行です。全都道府県へ行ったことがあり、現在は良かった場所へ再訪しています。旅行サイトや航空会社で安いチケットを探すのが日課です。

— あなたが自慢できることは？ —

プロ野球の知識と応援です。東北楽天ゴールデンイーグルス創設時からファンクラブに入会しており、2013年の日本一の瞬間を球場で立ち会えたことは一生の思い出です。

— 将来の夢は？ —

自分自身や関わる人が笑って過ごせるような日々を送りたいです。



大規模栽培へ 技術共有 同級生コンビけん引

今後の展望を話し合う
自戸部会長(左)と野呂副部会長



JAごしょつがるえだまめ部会で部会長を務める自戸謙二さん(53)と、副部会長の野呂修聖さん(53)は同級生。ともに就任2年目で、部会活性化に向けてタッグを組む。

部会員同士が情報を共有し、共通認識を持つことが部会の強みになると考えた自戸部会長は、就任後すぐに時期ごとの栽培技術と部会の活動報告をまとめた「えだまめ通信」の月刊発行を開始。現在29人いる部会員の多くは転作作物としてエダマメを栽培しており、詳しい栽培技術を知らない生産者もいた。「えだまめ通信」は評判も良く、部会全体の栽培技術向上にもつながっている。

一方で野呂副部会長は、部会が最終的に目指す大規模栽培をいち早く実践。他の生産者の手本となり、昨年は自身のほ場で収穫機械の実演会を開いた。今年から大規模化する生産者が2人おり、栽培面積が増える見込み。

2023年10月には、部会として初めて市場へ販売要請に出向くなど、今後の面積拡大を見据えた販路拡大にも取組んだ。大規模栽培に対応した共同選果体制確立などの課題もあるが、2人は常に部会の成長を考え意見を出し合う。就任2年目の新たな挑戦が始まっている。

新風

J Aつがる弘前

子ども憧れる職業に
リンゴ新規就農

リンゴと桃の栽培を行う齋藤聖さん(29)は、就農4年目の新規就農者。片道30^分ほどの園地に毎日通い、農作業に励んでいる。

リンゴ農家の伯父に、「後継者にならないか」と声をかけられたのがきっかけで就農。栽培技術は、伯父と地域の先輩農家のアドバイスや、日々の作業から経験を積み習得している。

「リンゴ栽培は全ての作業が難しいが、中でも病害虫被害は収入や収量に直結するため、薬剤散布は特に慎重になる」と話す。昨年、防除に失敗したことで病気が多発し、大きな減収を経験。薬剤散布のタイミングや量などの大切さが身に染みた。

今後は、作業の効率化と収量増のため、丸葉台とわい化台の両方の特性を生かした半わい性台に挑戦する。将来は園地面積を増やして法人化し、通年で雇用できる体制を整え、リンゴ農家として働く若者を増やすことが目標。担い手不足や高齢化の中、リンゴ生産量日本一を維持するための一つの方法なのではないかと齋藤さんは考えている。

「リンゴ農家が、サラリーマンの両親を持つ自分のような子どもの、将来就きたい職業の一つになれば」と語る。



摘花作業をする齋藤さん

後編 編集集

新緑が薫る季節、県内の田植えも終わっている頃かと。

今回の写真はディズニーリゾートの「カストーディアルアート」です。ディズニーリゾートでお掃除を担当の「カストーディアルキャスト」の中には、ディズニーの地面をキャンバスとして絵を描くことがあり、今回はドナルドとミッキーです。



過去に運よく見つけたものです。皆さんはどうですか？
それでは皆様、「SEE YOU ON JULY!」(一)

ホームページアドレス

- J A青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・J A情報などをご覧ください。
- J Aバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJ Aバンクへのリンク等をご覧ください。
- J A全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- J A共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
J A共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

農林漁業団体にお勤めされたことのある方に、
「特例一時金」を
お支払いしております。

まだお受け取りに
なっていない方は
今すぐ
お問い合わせを！

ただし、農林年金に住所登録がないとお支払いできません。



対象

農協 | 漁協 | 森林組合 | 厚生連病院 | 経済連

農業共済組合 | 土地改良区 | 農業会議 | たばこ耕作組合 | 漁船保険組合 | 農事組合法人 など

／ お心当たりは
ありませんか？ ／



63歳を超えたのに
農林年金からの
連絡がない



退職時から
「苗字」が
変わっている



平成8年12月
以前に
団体を退職した

ご連絡
窓口

農林年金
住所登録センター



農林年金

<https://www.norin-nenkin.or.jp/>



ツイッター
@norin_nenkin で検索



kanrichosyu@norin-nenkin.or.jp



フリーダイヤル 受付時間／9:00～17:00(土・日・祝日を除く)

0120-199-155



農林年金

農林漁業団体職員共済組合

東京都台東区秋葉原2番3号

知る、活かす、つなぐ

～JAグループ情報共有運動～



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

Q 日本農業新聞



全国約30万部発行。
全国のJAが出資し、農業の専門紙
では唯一の日報紙。
農家組合員とJAグループ、地域を
つなぐ全国メディアです。

Q 日本農業新聞公式サイト



月間ページビュー数約90万。
農業関係者だけでなく、幅広い年代の
ユーザーに閲覧されています。
Yahoo!ニュース、SmartNewsなどから
も多数のユーザーが流入しています。

Q フレマルシェ



全国約25万部発行。
JAのファーマーズマーケットを
中心に配布している消費者向けフ
リーペーパーです。メイン読者層
は30代～60代の女性です。

お問い合わせ先：日本農業新聞広告部

Eメール koukoku@agrinfo.co.jp TEL 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞

家

□IE no HIKARI

の

お申し込みは
お近くのJAへ

光

創刊100周年に向けて『家の光』が
2024年5月号から

誌面リニューアル!!



表紙は
こんな感じ!
(デザインイメージです)

リニューアルの
ポイント

3つのもっと

もっと カラーページを増やし
デザインを一新

活用しやすく
読み応えのある内容に

もっと 地域・JAに関する情報を充実

定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
●家計簿付き12月号 1,027円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL 03-3266-9039 <http://www.ienohikari.net>